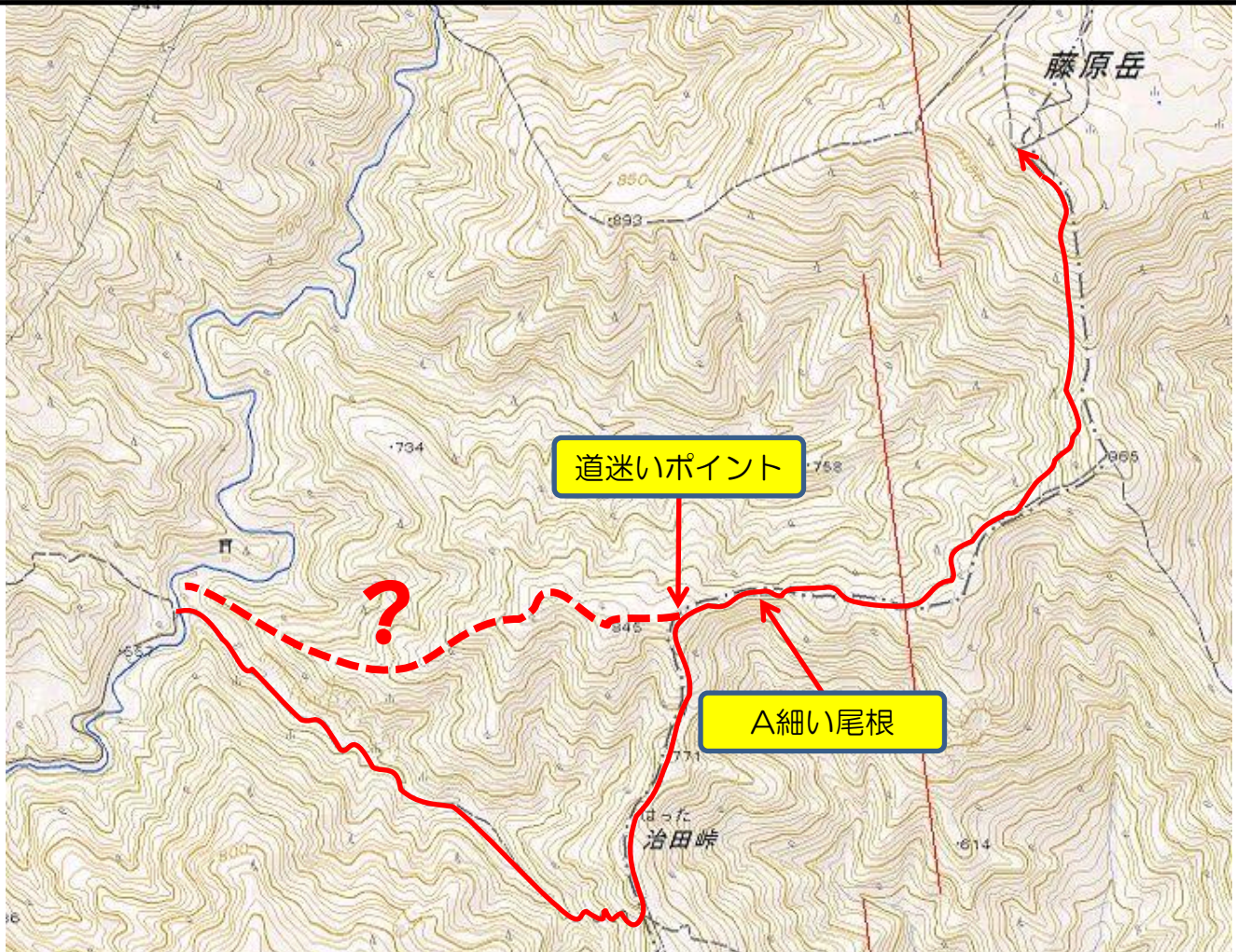


藤原岳道迷い(1993年10月)

茨川～治田(はった)峠～藤原岳を往復予定。登りで下山時の道迷いについて確認をしながら登る。藤原岳登頂しワインを空けて昼食を楽しむ。下山時に登りで確認した道迷い点を通り過ぎ道に迷う。緩やかな尾根だったので、滋賀県側に下っていると思い、あながち間違いがないと想像し、とにかく下る。ビバークも覚悟し、夜の闇が迫って来たところで、見覚えのある神社跡が確認できひと安心した。



解説

来た道に戻るのだが、容易に道に迷ってしまった。今回の道迷いは、①昼にワインを飲んで漫然と尾根を下ってしまった。②道迷いポイントを登りで確認したが、他人事のようにチェックしただけだった。③少し霧がかかっていた。という要因が挙げられる。

よかった点は、鈴鹿山脈は、東側が急で西側が緩やかな非対称山稜であり、比較的緩やかな尾根を下っていたので、方向は滋賀県方面(登山口)へ向かっていると判断しているところだ。しかし、結果オーライと言える。

コンパスさえ持っていれば、滋賀県側は西、三重県側は東と分り易いので進行方向が西か東かですぐわかる。リーダーは道に迷っても、理論で全体の行動をリードしてほしい。

今回の「道迷いポイント」は、90度道が曲がるポイント。このように90度曲がる場合、理論で曲がらないとリーダーとして全体の行動を指示できない。登りでは、「A細い尾根」を記憶し、「A細い尾根が出てきたら、すぐに道迷いポイントがでてくるので注意しよう」と慎重になり道迷いポイントを判断する。こういったテクニックはとても重要なので覚えておいても損はない。